



※ R5は補正後予算、R6は当初予算

地下鉄事業は、建設に巨額の投資を必要とし、支払利息や減価償却費の資本費負担が大きいことから、長期的に収支の均衡を図っていく事業です。福岡市地下鉄は平成23年度に単年度黒字化して以降、新型コロナウイルスの影響により大きく落ち込んだ令和2年度を除き、黒字基調で推移しており、開業以来積み重ねてきた累積損失を縮小させている段階にあります。令和6年度については、七隈線延伸効果やインバウンドを含む旅行客需要の回復により、59億円の黒字となる見込みです。